

神の御名をあがめる 詩篇 145:1-7	2023. 7. 30、丘の上 NO. 704 春日部福音自由教会 山田豊
-----------------------------	--

「主の祈り」に、「御名をあがめさせたまえ」とあります。本詩篇は、138～145のダビデ詩篇の結びであり、残り4つの詩篇を導く、神を賛美する荘厳なことばで満ちています。日本語訳ではわかりませんが、ヘブル語聖書では各節の1行目はアルファベットの1番から21番まで文頭に並べられています(ヌン以外)。ヘブル語いろは歌の構造になっており、形の上でも神をあがめ、賛美するようになっているのです。

表題の「賛歌」という言葉は、他の個所でも同じように訳されていますが、ヘブル語ではここだけの用法です。1節に「あなたの御名」とありますが、直訳は「あなたの名前」です。主の祈りでもあるマタイ 6:9 は、「御名が～」となっていますが、直訳はやはり「あなたの名前」です。しかし、これらの個所はすべて、あなたの名前とはイコール主なる神のことなので、日本語ではその多くが、「御名」「聖名」と訳されています。本日のテキストは、神をあがめ、賛美することが、最高潮に達している箇所なのです。

偉大な存在なので、英語的にいえばサムシンググレートですが、8-20には、どのような神であるかが歌われています。私たちの祈りの対象、崇める対象はなんであるのかがはっきりと示されていることは、日本人の多くが持つ宗教観、神観と違っています。ここには、まずもって神は創造主であることが歌われています。人間を含め、神に造られたものすべてが、神をたたえているというのです。あなたは、被造物がどのように神をたたえ、賛美していると思いますか。

神は、王であり、正義の方であり、力あることを歴史の中で示されてきました。それはあまりにも人間の業とかけ離れているので、恐ろしいほどでしょう。しかし、そのような方であるとともに、情け深く、あわれみ深く、慈しみ深い方でもあるのです。この詩篇を読んで、あなたも神がどのような方であるか、あらためて気づくことができると思います。

結びの21節には、罪びとである私たちですが、イエスキリストによってあがなわれたものとして、主なる神の誉れを覚え、御名を永遠にほめたたえることを告白しています。順風満帆の時は、なるほど神をたたえられるでしょう。しかしそうでない時でも、神をたたえていくのです。神の御業に、感謝をするのです。弱い私たちを守り導き、嘆きを踊りに変えてくださる主は、人知をはるかに超えた、すばらしいお方なのです。

引用聖句

ローマ 1:20-21 神の、目に見えない性質、すなわち神の永遠の力と神性は、世界が創造されたときから被造物を通して知られ、はっきりと認められるので、彼らに弁解の余地はありません。21 彼らは神を知っていながら、神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その鈍い心は暗くなったのです。

ルカ 1:46-48 マリアは言った。「私のたましいは主をあがめ、47 私の霊は私の救い主である神をたたえます。48 この卑しいはしために目を留めてくださったからです。ご覧ください。今から後、どの時代の人々も私を幸いな者と呼ぶでしょう。

ピリピ 2:9-11 それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名を与えられました。10 それは、イエスの名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが膝をかがめ、11 すべての舌が「イエス・キリストは主です」と告白して、父なる神に栄光を帰するためです。